

平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年3月29日

研究・研修課題名	院内がん登録データ集計・分析研修
研究・研修組織名（所属）	院内がん登録委員会
研究・研修責任者名（所属）	鈴宮 淳司（腫瘍センター長）
共同研究・研修者名（所属）	中林 愛恵（医療サービス課）

目的及び方法、成果の内容

①目 的

本院は、都道府県がん診療拠点病院の指定を受けており、「当該都道府県内の院内がん登録のデータの分析、評価等を行うこと」という指定要件が拠点病院整備指針で定められている。

また、本院は県内の院内がん登録実施病院のがん登録実務者を対象に実務担当者研究会を行っているが、データ集計や分析について学びたいというがん登録実務者のニーズがある。

これらのことから、標記研修会に参加し、院内がん登録データ集計・分析方法についての知識を得ることを目的とする。

②方 法

国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策情報センターが主催する「院内がん登録データ集計・分析研修」を受講する。

【対象】

院内がん登録全国集計参加施設の実務担当者

【日時】

2016年10月31日（月） 09:30-16:30

【場所】

国立がん研究センター築地キャンパス 研究所1階 セミナールーム

【内容】

標記研修会では、全国の拠点病院等から国立がん研究センターへ院内がん登録情報を収集する院内がん登録全国集計の集計方法や分析等について学び、施設等でデータを有効活用することを目的としている。

実際の院内がん登録全国集計のデータを用いて、パーソナルコンピュータで、集計方法や分析等についての実習を行う。

③成 果

【研修会で得られた知識】

標記研修会では、microsoft excel を用いた院内がん登録データ分析演習があった。excel ファイルは、国立がん研究センター全国集計報告書と同様のデータ変換可能な関数、局在変換用マスタ、組織型変換用

マスタ、症例区分変換マスタ、都道府県マスタなどで構成されていた。標準定義や ICD-O-3 の改定などの院内がん登録に関連する状況の変化に対応して、これらのマスタは更新が必要な旨説明があった。

また、生存率集計について講義があった。院内がん登録全国集計では、今年度から施設別生存率が公開予定である。いくつかの生存率算出方法があるが、院内がん登録全国集計では実測生存率とともに、がん死以外の影響を除いた相対生存率を公表予定であり、それぞれの算出方法の特徴について説明があった。生存状況把握割合が低いと生存率を過大評価する可能性があるため、院内がん登録全国集計では生存状況把握割合 90%の施設について公開予定である旨説明があった。

【研修会の知識の活用】

標記研修会で具体的な分析方法について講義・実習を受けることができたため、県内のがん患者の分布状況や、施設の役割等が集計・分析に研修成果を生かし、都道府県がん診療拠点病院の責務としての、県内のがん診療に係る情報の共有、評価、分析及び発信に役立てることができる。

さらに、標記研修会で学んだ概要を、平成 28 年 11 月に開催した実務担当者研究会で、報告し、情報を共有した。今後は各病院のニーズに応じて分析方法等を共に学び合っていきたいと考える。